

海外短信

上海が支援するカシュガル(喀什)経済特区



俞 彭年*

中国の最西端に位置するカシュガル(喀什)地区

カシュガル(喀什)地区は中国の新疆ウイグル自治区の西南部に位置し、東はタクラマカン砂漠に接し、南は崑崙山脈、西はパミール高原、北は天山山脈に囲まれている。中央アジアのタジキスタンとキルギス、南アジアのパキスタンとインド、西アジアのアフガニスタンなどの五カ国と接する。タクラマカン砂漠を挟んだ古代シルクロードの西域北道と西域南道はカシュガルで合流した。パミール高原を越えてさらに西に向かえば中央アジア諸国へ、南に下ればイン

ド亜大陸に至り、古来東西交渉の要所として栄えた。水資源と日照が豊富で、無霜期が220日間にも達する。鉱産物や石油や天然ガス、それに農産物などがたいへん豊富である。観光資源も非常に豊富であり、内外の観光客を魅了する。

民族構成はウイグル族90%、漢族8%、その他2%となっている。

面積は111,794.03km²、人口は361.94万人である。

行政区画は1市と11県である。

名 称	面積 (km ²)	人口 (万人)
カシュガル(喀什)市	294.21	35
シュロー(疏勒)県	2,262.75	29
シュフ(疏附)県	3,482.94	37
ファイザバード(伽師)県	6,600.68	33
カルギリク(葉城)県	28,928.64	37
マラルベシ(巴楚)県	18,490.59	39
ヨブルガ(岳普湖)県	3,165.76	14
イェンギサル(英吉沙)県	3,420.9	23
ヤルカンド(莎車)県	9,036.55	62
ボスカム(沢普)県	999.66	18
マルキト(麦蓋提)県	11,022.53	21
タシュクルガン・タジク(塔什庫爾干塔吉克)自治県	24,088.82	3

*県立シーボルト大学名誉教授、長崎県立大学リエゾンオフィサー

《喀什地区2010年国民経済及び社会発展統計公報》がまだ公表されていないようである。《喀什地区2009年国民経済及び社会発展統計公報》によると、GDPが326.4億元に達し、前年比14.9%増の伸びを見せた。一人当たりのGDPは8,569元(1,270米ドル)であり、前年比11.6%増である。第一次産業と第二次産業と第三次産業との比例は37:29:34である。対外貿易総額は10.13億米ドル、前年比39.1%減である。そのうち、輸出が10.13億米ドル、前年比39%減であり、輸入が86.6万米ドル、前年比71%減である。観光業では、観光客が延べ153万人で収入が6.8億元であり、そのうち国内観光客が延べ149.5万人、国外観光客が延べ3.02万人である。

交通では、現在、直行便としてカシュガル(喀什) - ウルムチ(烏魯木齊) カシュガル(喀什) - 済南、カシュガル(喀什) - 上海、カシュガル(喀什) - 広州の四つの航空路線がある。鉄道は全長1,446.37kmの南疆鉄道があり、トルファン(吐魯番)を出て天山山脈を越え、コルラ(庫爾勒)からはタクラマカン砂漠の北縁を走り、クチャ(庫車)、アクス(阿克蘇)を経てカシュガル(喀什)に至る。陸上貿易通路として、現在、開放されているのはパキスタンに出るクンジュラブ(紅其拉甫口岸)、キルギスに出るトルガット(吐尔尕特口岸)とイルケシタン(伊尔克什坦口岸)、タジキスタンに出るカラスー(卡拉蘇口岸)の四つの陸上貿易港がある。道路は四方八方に通じている。

中国の六番目の経済特区

2010年5月、中央新疆工作会議において中国西部地区で初めての経済開発特別区としてカシュガル(喀什)経済特区の設置が正式に認可された。

中国では1980年に初めて経済特区が設置された。それは深圳(しんせん)、珠海(しゅかい)、厦門(アモイ)、汕頭(スワトウ)の四つであった。1988年にまたひとつ設置され、海南島(かいなんとう)が経済特区になった。その後は新しい設置がなく、22年後の2010年になって六番目となるカシュガル(喀什)経済特区が設置された。これは2000年から始まった中国の西部大開発における一大措置と見てよいであろう。

六つの経済特区では面積はカシュガル(喀什)経済特区がトップに立つ。

中国の最西端に位置するカシュガル(喀什)経済特区の位置づけとして、「東に深圳あり、西にカシュガル(喀什)あり」が打ち出されている。カシュガル(喀什)地区は中央アジアのタジキスタンとキルギス、南アジアのパキスタンとインド、西アジアのアフガニスタンの五カ国と接するため、中国の西に開かれた門戸とみなされる。深圳が経済特区によってただの一漁村から飛躍的に発展していまの国際都市に成長したように、経済的にも社会的にも遅れたカシュガル(喀什)地区が経済特区によって飛躍することが期待される。

現在、新疆を取り巻く国際環境が大きく変わっている。冷戦が終焉し、平和と発展の時代が到来し、ソ連が崩壊して中央アジアの各国が

各経済特区の面積 (単位: km²)

深 圳	珠 海	厦 門	汕 頭	海南島	カシュガル
2,020	1,687.8	1,565	2,064	33,920	111,794

独立し、1996年に結成された上海協力機構（SCO）が大きな成長を見せている。現在、上海協力機構の加盟国は中国、ロシア、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタンの六カ国、準加盟国はモンゴル、インド、パキスタン、イランの四カ国である。ユーラシアにおける国際機構としての上海協力機構の存在感は日増しに強く示している。

上海協力機構によって、政治の面では中国と中央アジア各国との関係は良好であり、経済の面では中国も中央アジア各国もみな自国の経済発展に力を入れているため、中国と中央アジア各国との相互補完的な貿易の必要性が日増しに大きく高まっている。中国は改革開放が進み、経済が大きく発展し、WTOにも加盟して、国際貿易のさらなる発展の要件が整いつつある。新疆ウイグル自治区も改革開放によって大きく成長し、現在、社会が安定し、経済も発展し、国際貿易や文化交流がますます促進されてきている。《新疆ウイグル自治区2010年国民経済及び社会発展統計公報》によると、GDPが5 418 81億元で前年比14.9%増であり、一人当たりGDPが24 978元（3 690米ドル）で前年比9.4%増である。第一次産業と第二次産業と第三次産業との比例が19.9：46.8：33.3である。貨物の輸出入総額が171.28億米ドルで前年比22.8%増であり、そのうち輸出が129.7億米ドルで前年比18.6%増、輸入が41.58億米ドルで前年比38%増である。観光事業では、国外観光客が延べ106.53万人で前年比43.5%増、それによる外貨収入が3.68億米ドルで前年比40.8%増であり、国内観光客が延べ3 037.84万人で前年比44.8%増、それによる収入が281.13億元で前年比59.1%増である。

このようにカシュガル（喀什）経済特区の設置には「天の時、地の利、人の和」がそろった

といわれる。目指すのはシルクロードの交易の復活、現代シルクロードの要所として中央アジア・西アジア・南アジア向けの輸出加工基地、商品の中継基地・集散基地、エネルギー資源と稀少鉱産物資源の輸入通路、国外エネルギー資源開発、国外市場開拓などの機能を大いに生かすことである。そして将来、新ユーラシア・ランド・ブリッジになることであろう。発展指標として、5年後の2015年に一人当たりのGDPが全国の平均水準に達し、2020年に全国と同じように「小康」水準に達することである。

現在、経済特区の産業、税収、金融、土地、対外貿易等における優遇政策をフルに生かして内外の企業誘致を大いに進めようとしている。方針として、建設資金は外資を主とし、外資企業、華僑資本企業、香港・マカオ・台湾資本の企業の誘致を主とし、製品は輸出を主とし、経済構造は第二次産業を主とし、あわせて観光業・不動産業・金融業・外食産業等の第三次産業も発展させる。教育の発展にも力を入れていく。

上海からの支援

中央新疆工作会議では「先富論・共富論」（先に豊かになった地域が遅れた地域を支援して共に豊かになる方針）にしたがい、19の省と市が新疆ウイグル自治区の経済建設と社会発展を組になって支援することが決定され、上海市、広東省、山東省、深圳市の2市2省がカシュガル（喀什）地区を組になって支援することになった。その組み合わせは次のとおりである。

上海市は各方面を動員して経済・幹部・人材・教育・科学技術の五つの面から組み合わせる新疆支援を展開することを決め、「民生を根本とし、産業を重視し、企画を先行さす」とい

上海市	マラルベシ(巴楚)県、ヤルカンド(莎車)県、ポスカム(沢普)県、カルギリク(葉城)県
深圳市	カシュガル(喀什)市、タシュクルガン・タジク(塔什庫爾干塔吉克)自治県
広東省	シューフー(疏附)県、ファイザバード(伽師)県
山東省	シューロー(疏勒)県、イエンギサル(英吉沙)県、マルキト(麦蓋提)県、ヨブルガ(岳普湖)県

う総合的指導原則を決めた。そして、支援活動は、現地政府の指導に従う、現地発展の実際の需要から出発する、地元の民族の伝統と習慣を十分尊重し理解する、現地の経済と社会の発展の実情に合わせる、地元の大衆の生産と生活を改善する建設項目に合わせる、地元の民族と宗教と文化の特色に合わせる、地域の特徴と地方の特色と民族の特徴がさらに体现できるようにする、カシュガル(喀什)地区の経済と社会が良く速く発展するように尽くす、などが明確にされた。

2010年6月29日、「上海市組み合わせ新疆支援工作前方指揮部」がカシュガル(喀什)市に設置され、上海市政府副秘書長、閩行区区長の陳靖氏がその責任者を兼任することになった。そして、幹部・教師・医師等からなる百余名の組み合わせ新疆支援工作隊が現地に派遣された。多くの市民も自発的にボランティアとして現地に赴き調査研究や視察などを始めた。「カシュガル(喀什)の美しい将来に知恵と才能をささげよう」という合言葉の下によきアイデアの募集活動も始まった。

2010年7月1日、「上海市組み合わせ新疆カシュガル(喀什)地区支援工作座談会」がカシュガル(喀什)市において開かれた。そして、「2010年組み合わせ最初の試験的項目の意向書」が上海市新疆支援工作前方指揮部とカシュガル(喀什)地区行署との間に調印された。内容は20項目からなり、主に産業の発展、教育、医療衛生、新農村建設、人力資源支援などにわたる。さら

に上海市の区とカシュガル(喀什)地区の県とがそれぞれ組になって「支援意向書」を調印した。上海市浦東新区はヤルカンド(莎車)県と、上海市黄浦区・宝山区はカルギリク(葉城)県と、上海市静安区・松江区はマラルベシ(巴楚)県と、上海市楊浦区・閩行区はポスカム(沢普)県とが組になった。上海市農業委員会はカシュガル(喀什)地区農業弁公室との間に「カシュガル(喀什)地区の上海西郊国際農産品展示即売センター駐在についての協議書」を調印した。上海の企業もカシュガル(喀什)地区の四つの県とそれぞれ最初の協力項目に調印した。内容は30項目にわたり、農産品の栽培・高度加工・買い付け、建築資材の製造、物流関係、観光業、エコロジー緑化などである。金融面での支援として、上海浦東開発銀行が2010年6月にカシュガル(喀什)支店を開設した。

現在、カシュガル(喀什)経済特区は経済界から注目されだしている。国と上海市の呼びかけにこたえて、国有企業や民営企業がぞくぞくと投資視察に訪れている。投資意向書や投資契約書の調印もかなりの数を見せている。インフラや投資環境や人材養成などが急速に整備されるにつれて内外の企業進出が大いに期待される。上海建材集団はヤルカンド(莎車)県の人民政府及び隆基セメント有限公司と調印した合作契約によって、カシュガル(喀什)地区の大開発・大建設・大発展に備えて、共同出資して年産100万トンの新型のセメント生産ラインを建設する。計画では2011年内に逐次生産が稼働

する。2011年4月、ポスカム（沢普）県工業団地総合実地訓練基地が着工に入った。敷地面積95,338平米、建設総面積14,605平米、投資額3,500万元、年間養成5,000人、建設経費はすべて上海からの支援による。マラルベシ（巴楚）県職業技能実地訓練基地もすでに着工に入っている。現地の産業労働者の養成を図るためであり、やはり建設のすべてを上海が負担し、敷地面積42,668平米、建築総面積28,000平米、2012年6月に完工の予定である。上海市農業委員会とヤルカンド（莎車）県政府との協定による「ヤルカンド（莎車）現代農業モデル園」もすでに着工している。完成すれば新疆南部における最大の現代農業のモデル園となる。標準化・工場化された現代農業生産方式が導入され、育苗・育種・栽培・加工・観光などの機能を有して、新疆南部における波及効果が期待されている。建設は上海浦東孫橋現代農業園が担当し、その費用は全部上海市がまかなう。工事は二期に分かれ、一期工事は工場化の育苗センターの建設であり、敷地面積は15,334平米になり、2011年5月に竣工する予定であり、計画として年間育苗量は2億株を越す。

上海市の支援成果や内外の企業進出の情報が今後も紙上をにぎわすことであろう。日本のほうはこの件をどうとらえるかが筆者の関心事でもある。先見の明を有する識者はきっと関心を持つに違いないと思うが、傍で眺めているだけでなく、進んでかかわっていくべきではなからうか。特に日本の九州は進出機会として注視していく必要がある。そのために、長崎県立大学の先生方が調査と研究をされるよう期待してやまない。